

『2021 年度 退院支援研修①』

◆テーマ：『コロナ禍における退院支援・地域連携の新たな取り組みについて』

◇日時：2021 年 9 月 25 日（土）14：00～16：00

◇内容：【講義】

感染拡大の影響が長期化する中、退院支援の状況が急性期・回復期・在宅分野でどのような影響や課題があり、どのように対応してきたか等、それぞれの立場で実践されている講師から状況について講義を受けた。

■日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院：榎本 伸一 氏

■白山リハビリテーション病院：鈴木 勇輝 氏

■藤田医科大学 地域包括中核センター：池田 寛 氏

【グループワーク】

◇内容：参加者それぞれの状況や取組んでいること、課題に感じることをグループで話し合い、気づきや学びを日々の実践に活かす。

①退院支援のシステム再構築・組織作り、②対外的な情報伝達の手段の工夫、

③会えない中で、病棟担当者や主治医と家族の関係作りへの対応、④課題の共有と改善策の検討

◇参加人数：14 名

◇アンケート

コメント紹介◇ ～一部抜粋～

■感染対策は大事だが、何のために感染対策をするのか？

→患者が安全に退院できて、安定した療養ができること、そのためにやらなければならないことについて根拠を持って多職種に伝えられること、感染対策が頭にあるばかり、患者家族支援の肝を忘れていたことに気づくことができた。（総合 10 年～15 年未満）

■オンラインでの情報提供や退院支援、家族へ状況説明など進んでいるが、必要に応じた感染対策を行いながら直接顔を見て、直接患者の理解が家族にできるようにしていくことが必要と再認識できた。またワクチン接種が進む今後は次のフェーズになると予測される。何のために患者の情報を伝えなければならないのか、伝える手段が今は何か、退院後の生活のため伝える場が必要だということを忘れず退院支援を考えていきたい。（回復期 10 年～15 年未満）

■感染対策も大事になってくるが、入院中や退院後に安心できるような支援を忘れない。ICT が普及し、どこにいても会議に参加しやすくなるメリットはある。しかし、zoom で話す時に密になってしまうことやプライバシーが守られていない場合も出てくる。感染対策とプライバシーを配慮しながら ICT を活用し外部との連携を行っていききたい。（地域包括療養 3 年～5 年未満）

■最近、退院前カンファレンス等を Web で行う機会が増えてきていますが、機器を使いこなすことや Web 会議の進め方などやっと慣れてきたと感じている。今までは、会議を主催することに精一杯で、個人情報保護の視点が疎かになっていたと気がついた。改めて個人情報の保護をどうやって担保するのか見直したい。（総合 10 年～15 年未満）

退院支援研修①について

退院支援研修委員会 坂本 理恵

COVID-19 の感染拡大により、研修の開催形式が変わって 2 年目となった。オンライン研修の持つ参加しやすさは大きなメリットだが、参加者同士が気軽に話せるゆとり時間がない。リアル研修に参加するようなちょっとした情報共有や顔を合わせることで深まりが難しいのも確かである。今回、最前線で活躍している講師の話の後、参加者によるグループワーク時間を多めに確保した。経験年数や所属機関の違いはあるも、それぞれの機関の状況から、学びや気づきにつながって、参加者同士がエンパワメントして頂ける機会になったのではないかと考える。刻々と変化する社会情勢の中、引き続き、MSW 自身が元気に、患者家族の支援に取り組めるような研修企画を今後も提供できるようにしたい。